



本校の授業改善に向けた視点					
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域との連携の工夫	小中一貫教育の視点
<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導を工夫する。 授業のねらいを明確に示し、板書、ノート指導、発問、振り返りを丁寧に行う。 自分の考えや思いを表現（話す・書く）する場を授業の中で確保し、考える授業の展開を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数で習熟度別授業による個に応じたきめ細かい指導をする。 全学年週二回朝読書の時間を設定し、読む習慣を付け、読み取る力を育てる。 全学年週一回の朝学習の時間を設定し「書く」活動を重点に基礎学力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学び合う力の育成」を重点とし、関わり合いの質の向上を意識して人権課題への取組を中心に研究授業を全学年実施する。 研究内容の日常化を図る。 9年間を見通した人権尊重教育の課題改善カリキュラムの実践的研究を通して改善を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導の振り返りを学習のつなぎに生かす学習過程を重視する。 授業や諸活動の中で随時適切な評価を加え、評価と指導の一体化を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に全体保護者会で基本方針を説明し理解を得る。 各種便りで学校生活全般の情報を提供する。 保護者・地域の人材を授業の中で積極的に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 9年間を見通したカリキュラムに基づいた学習内容を工夫する。 家庭学習の継続的・系統的な指導を進める。（自主学習ノート等） 子供の自己評価力、相互評価力を高めるための場を工夫する。

授業改善策の検証方法
<ul style="list-style-type: none"> ○自己評価シート〔自尊感情測定尺度（・自己評価、自己受容・関係の中での自己・自己主張、自己決定）〕 ○教師の観察から（学校経営計画「職務目標・評価チェック指針」） ○学力調査結果についての分析 ○児童・保護者へのアンケート（学校評価） ○学校評議員会での学校経営計画にかかわる評価